

2017年度 第3回「デジタル公民館まっさき」活動 12月活動報告

2017年12月9日(土)~12月10日(日)

1.活動スタッフ・現地参加者数

活動スタッフ参加者：9名（内訳）				イベント名	日時	現地参加者	現地講師
男性	6名	アソシエイト層（～34歳）	1名	「PC教室」	12/9(土)13:00-16:00	8名	2名
女性	3名	リーダー層(35～59歳)	5名	「ミニ門松づくり」	12/10(日)9:00-12:00	28名	11名
		シニア層(60歳～)	3名	「ごいし浜 あの日のあとき」語り部スライドショー	12/10(日)13:30-15:00	1名	2名

※ミニ門松づくり現地講師 内訳：竹とんぼリーダー8名、居場所ハウス2名、公民館1名

2.活動場所・スケジュール

- ・ハネウエル居場所ハウス 岩手県大船渡市末崎町字平林 54-1 電話：0192-47-4049
- ・末崎地区公民館（ふるさとセンター） 岩手県大船渡市末崎町字平林 81 電話：0192-29-2955
- ・羅・芽衣瑠（ラ・メール） 岩手県大船渡市末崎町泊里 137-1 電話：0192-29-2112
- ・海鮮の宿ごいし荘別邸 海さんぽ 岩手県大船渡市末崎町字大豆沢 46-1 電話：0192-29-3170

12/9（土）	イベント	場所	備考
7:16	東京発（9:30一ノ関着）		はやて111号
	車移動		居場所ハウスへ（約2時間）
11:30	賛助会ご入会手続き	居場所ハウス	1口2,500円
11:45	昼食	居場所ハウス	スマイル食堂にて各自昼食
13:00	パソコン教室	ふるさとセンター	現地の指示に基づき個別対応
17:00	意見交換会	居場所ハウス	
	懇親会	同上	
20:30	反省会	海さんぽ	一日の振り返り
12/10（日）	イベント	場所	備考
6:00	現地近隣視察	碓石海岸～箱根山	自由参加（無料）
7:00	朝食	海さんぽ	
9:00	ミニ門松づくり	ふるさとセンター	現地の指示に基づき個別対応
12:15	昼食	羅・芽衣瑠	別途徴収会費
13:30	「ごいし浜 あの日のあとき」語り部スライドショーと意見交換	同上	「羅・芽衣瑠」店主 大和田初男さんによる語り部
15:00	振り返り	同上、レンタカー社内	二日目の活動に関する振り返り
	車移動		一ノ関駅へ（約2時間）
17:48	一ノ関発（19:56東京着）		はやぶさ108号

今年度の「デジタル公民館まっさき」活動は、公民館で開催される地域の自律したコミュニティ活動を見守り、後押しをするというスタンスで、コミュニティ活動への参加要請があれば、それに出来るだけお応えする形で活動します。

3.参加者による活動内容報告・成果・感想

「PC 教室」

12月9日(土)13:00-16:00 場所：末崎地区公民館（ふるさとセンター）2階会議室

«活動内容»

■Facebook

- ・プロフィールの携帯電話番号の変更（アカウント設定時の電話番号のままなので現在の番号へ変更したいが分からない）
- ・アカウント設定（個人のアカウントを設定したいが設定方法が分からない）
- ・初回アカウント登録、細浦復興朝市のページ検索、検索の方法、友達リクエスト、メッセージのやりとり
- ・起動（起動時に認証キーが必要になっていて、使えない状況になっていた）

■PC 操作

- ・シャットダウン時の起動中のアプリのアンインストール（シャットダウン時に毎回、あるソフトが起動中でスムーズにシャットダウンできず困っていた。起動中のアプリが不要なものだったのでアンインストールを実施）

■年賀状づくり

- ・【要望】写真を入れたい。デザインを決めたい。【対応】PCにインストールされている筆まめを使い、年賀状づくりをサポート。無事に写真を差し込み、デザインも決めて年賀状を作ることができた。作成した年賀状を保存して、次に開くときに、どこから、何をダブルクリックすると作成した年賀状が立ち上がるかを説明し、実際に操作して頂いた。

«成果・感想»

- ・今年度からパソコン教室の主催が地元へ移管され、それをKK²が要請に基づき支援する形に変更となっていました。平均3名程度の来場で、量的な支援が必要ではない状況と伺っていました。今回は一定の人数にお集まり頂きました。しかしながら、通常の活動実態とはかけ離れたものであり、本来のふる

センでのパソコン教室の有効な活動の在り方について課題を感じました。本当はニーズがあるもののパソコンで何ができるのかを知らないために、その便益を享受できない方もおられるのではないのでしょうか。また、Facebook等のSNSでは写真や映像で自分の目の前の出来事や風景を同時に多くの人と共有し、共感することを体感すれば、その有効性を御理解いただけるのではないのでしょうか。そういった価値を広げて行く能動的な取り組みも必要だと思いました。

- ・マンツーマンでお困りの点についてお伝えすることができた。当初参加者が少ないのではとの予想を良い意味で裏切られ多くの方にお越しいただき良かった。初参加の方がいたのも収穫であった。

- ・Facebookを始めたいとか、実際に始められている現地参加者に、SNS上のマナーをご紹介する機会も作れたらよいと思っています。というのも、その他大勢でお目にかかったことはあるものの、ほとんど1：1で会話したこともない現地の方から、メッセージもなくいきなりFacebookの友達申請が来たりします。デジタル公民館まっさきメンバーであれば、許されるかもしれませんが、一般社会ではあまり好ましく思われません。ですので、SNS上のマナーについてご紹介できればと思います。

- ・当日、地域協力隊の方が2名参加されました。これを機会に、連携や協力できるように地元の方々で働きかけ合うことを期待します。

「意見交換会」

12月9日(土)17:00-20:00 場所：居場所ハウス



「成果・感想」

・継続事業体としての収益モデルに関する意見交換となりましたが、地域の方のボランティアによる収益モデルの運用の難しさが伝わりました。①『対価性』を中心に話し合われましたが下記の点についても検討されてはいかがでしょうか。②『話題性』は、海産物・農産物・加工品等の名産物の製造販売、移住・六次産業、イベント等マスコミに取りあげられる特徴的でインパクトのある取組みです。③『共感性』は、居場所ハウスの理念や考え方、取組みが人々に感銘を与えるかいなかです。いまある8つの理念だけでなく、それを実現する具体的な取り組みの検討が必要だと思います。専門や特徴を活かす他、皆で勉強しながら取組み、試行錯誤して困っている人を地域で支える取組みが共感を得やすいのではないのでしょうか。④の『関係性』は、縁故・知人友人、先生生徒、徒弟等人間関係の他、ハネウエルとの関係、取引関係及びいわゆるお付き合いといったものです。重要度は①から、優先度は④からでしょうか。4つのテーマ毎に計画を立てて着実に実施してゆくことが必要だと思います。

・議題2のボランティアを増やすことについて想いを話していただきました。Oさんは、居場所ハウスの近所に住み、居場所ハウスができる様子から見てきたので、「可哀想」「守っていきたい」という気持ちでボランティアを続けていると仰っていた。Oさんは、近所の方にももっと来てほしいが、それがなかなか難しい、イベントには来るけど、平日は来てくれないと言っていた。また、無償ボランティアにこだわる理由として、有償ボランティアの方とは馬が合わなかった、気持ちが通じ合わなかったと仰っていた。Oさんは少し涙目だった。心の底からなんとかし

たいと思ったが、居場所ハウスはたった数人の気持ちがある人で日常の運営が成り立っているため、他の人に想いを伝えて仲間を増やすことのみならず、議論で出ているようなビジネスライクのやり方で物事を進めていくのも難しいだろうなあと思いを抱えた。一緒にお話をしながら懇親会の片付けをした後、アイスをくださって、正直お腹はいっぱいだったけれど、その気持ちが本当に嬉しかった。

・持ち帰り自分自身で考えてみました。

1. 企業に対する寄付の関わり方について

【居場所ハウス側の意見】

- ・地元企業の賛助会員を増やしたい
- ・賛助会員を増やす目的は運営費の確保
- ・提供できるメニューとして考えていることは、わかめの収穫

【KK²活動メンバーの意見】

・企業が賛助会員になり社員を外に出すときは、企業としてその社員が何を学んでくるかが重要である

- ・将来の高齢者に対する教育は魅力がある
- ・KK²活動メンバー…居場所ハウスとしてどのようなメニューであれば魅力があるか考える。都心の企業に対する営業は、KK²活動メンバーで支援することも可能ではないか

【上記を踏まえて思ったことを列挙します】

- ・防災に携わる企業に対して、震災時に起こった様々なことや、教訓を伝えるようなプログラムを提供してはどうか。

・地域が抱える課題を説明し、それについて、真剣に議論・提案をして報告書を作成する（若手・中堅社員向け）

・（例えば被災未経験の）自治体が賛助会員になることはできないか。職員の防災意識啓発向上を目的として。

・企業団体の賛助会員も良いが、個人の賛助会員の方が比較的簡単に集めることができると思う。その方法としては、会員の口数に応じて、地元特産品を送ることをうまくPRできれば、個人で会員になってくれる人がいると思う（思いつく限りでは、今までにKK²の活動メンバーとして末崎町に来たことのある人など）

・居場所ハウスとしてSNSを有効に活用する（有効活用については別途検討する必要があると思うが・・・）また、居場所ハウスの運営メンバー個々としても、知人やSNSを通じてPRする必要もあると思う。

2. ショートボランティアの募集継続について

・通常時の運営に地元のお母さん方をショートボランティアとして活用するには、普段からの関わり方、アピール等が必須だと思うが、人の心を動かすのは難しいことでもあると思う。ただし、上記のようなことが継続的に可能になれば、そのプロセスを可能な限りプログラムの的にすることで、企業に対して提供できるメニューのひとつになるのかもしれない。

・普段のショートボランティアを継続的に確保する方法として、中学校に話を持ち寄ってみてはどうか。中学生に対して、当番制で居場所ハウスの運営支援することは双方にメリットがあるように思う。

3. その他

・交流会は毎回ではないにしても、定期的に行っても良いと思う。（私自身、勉強になりました）

・居場所ハウスでの懇親会について、食べきれないほどの美味しい料理をいただきました。とても美味しかったです。ありがとうございました。既に、支援する側、支援される側のような固い関係ではないように思いますので、このような雰囲気でも懇親会を行うことも良いことだと思います。

・居場所ハウス存続のための意見を出すことができた。居場所ハウスの存続が本当に必要なかを問いただす質問ができなかった。

・居場所ハウスでの企業からの寄付をどうやって増やせばよいかの議論は、少しポイントがずれていたようで残念でした。

居場所ハウスの活動に共感を得て、応援したいと思ってくれる企業を増やしていくことが必要だと思います。そのためには、居場所ハウスが現地で住民から必要とされている施設であることが大事です。そのためには、みんなが嬉しい、助かった、と思ってくれるサービスを企画して運営していかなくてはなりません。あの場でも少し申し上げましたが、近隣の企業の商品販売会をやったり、企業や大学の紹介プレゼンを学生向けに行なったり（キャリア教育）、企業が当事者として参加できるイベントも企画してみたいかでしょうか。企業にとってメリットがあれば、寄付してもよいと思うかもしれませんが、それと、末崎町出身の企業で活躍している方を通して、その企業の寄付を募るのもOKだと思います。末崎出身の著名人の人脈を辿ったり、地元出身者をリサーチしてもよいかもしれません。居場所ハウスを活用しての活動は良かったと思いますので、地元にお金を落とすという直接的な応援も含めて、また実施しても良いのではないのでしょうか。

「ミニ門松づくり」

12月10日(日)9:00-12:00 場所：ハネウエル居場所ハウス



«成果・感想»

・ミニ門松づくり、昨年は現地の男性がノコギリで全て切ってくださいだったので、私はデコレーションするのみでしたが、今年はAさんがノコギリ使用時や、縄で竹を結わくところなども、私にさせてくださりながら、お手伝いして下さって、とても温かく、楽しく、嬉しかったです！貴重な経験をさせていただきました。

・毎年大勢で賑わい、今年はリピーターの方が増え、一段と賑わうものと期待しておりましたが、理由は分かりませんが来場者は例年より少数でした。それでも、末崎町の竹とんぼリーダーが集い、協力してミニ門松づくりを運営する姿を見る事ができ、完成した門松をご覧になって嬉しそうな笑顔に触れられたことは良かったと思います。

(1) 半年前から企画し、材料を調達され、前日のうちに会場の設営を終える等、竹とんぼチームのチームワークが伝わりました。

(2) 例年、来場して制作された方には大変好評でしたが、今年はそのリピーターが見られず、来場者が少数でした。これはパソコン教室とは違って、多くの方々にお声掛けして集まって頂くことが価値だと思いますので、集客をテーマに検討が必要だと思います。

・ミニ門松づくりでは、昨年と比べて人が来ず、正直何をしたらよいかと困った。せっかく来てくれた1年生の子が大人に

囲まれて泣いていたのも可哀想だった。広報には載っていたようだけれども、時間が9時半～12時まで一斉作業なのか、いつ来てもいいのかわからなかったという声も聞いたので、一緒に告知方法の改善ができたらと思った。

・地元の方々の参加人数が少なく残念でした。参加人数が少ないことで少し間延びした印象があります。怪我をされた人がいなかったことは良かったです。碁石インフォメーションセンターの女性の方が参加され、当初は取材のみの予定のところ、ミニ門松づくりの体験もされていました。さらに、どこ竹まっさきグループ村上正吉代表と今後（同センターで竹とんぼ教室を企画するとか）についてお話されている光景が印象的でした。ミニ門松づくりをひとつの機会として地元の方々の繋がりを深め、広く発展してほしいと思います。

・参加者が少なく（特に昨年多かった子供が少なかった）、サポートができなかった。

・碁石海岸インフォメーションセンターのスタッフにミニ門松づくりを紹介していた。竹とんぼ教室をインフォメーションセンターでもやりたいということだったのでグループ代表に紹介。つながりづくりができたのは良かった。

「ごいし浜 あの日あるとき」語り部スライドショー

12月10日(日)13:30-15:00 場所：羅・萌衣瑠



《成果/感想》

・わたしたちにとっても語り部や司会者にとってもいい機会になったと思う。羅・芽衣瑠という交流の場、居場所も大事にしたい。

・(1) 写真撮影場所の図示及び解説。最初に地図をお示し頂き、地図上のどの地点からどの方角の写真撮ったのか解説して頂き非常に分かりやすかったです。

(2) 被災時点の写真投影及び解説。次に実際にその写真をプロジェクターで投影して下さり、当日の様子を共有することができました。ここでの津波は他で報告されているものとは異なり、「静か」だったと伺い、同じ震源の地震でも地形によって異なる津波の現れ方があるのだと知りました。「静か」しかしどんどん水かさが高まって辺りを呑みこんでゆく様子を確認することができました。そこで体験した経験をそこに住む人たちが語って伝えることの重要性を実感しました。3.11以降も毎年のように日本全国で自然災害が発生して、ここでの出来事が過去のものとなり人々の記憶が薄れているのではないのでしょうか。被災された方本人が、被災した現場で、写真に基づいて語り伝える活動は有意義なものであると思いました。

・高校の修学旅行で沖縄に行った時に聞いたひめゆり学徒隊の語り部を思い出した。以前、あの日あのかの時の出来事をお聞きしたことがあったが、写真付きだとよりリアルに情景が顕となった。自分の周り(東京の大学生)の中で3.11は、日々ゆっくりと風化していつに、私も公民館に行くだけでは沢山の笑顔に囲まれて、わからなくなってしまうのが正直なところだけど、今日お話を聞いてぐぐっと呼び戻されて震災の怖さを再認識した感じがした。これからの取り組みの計画を聞いて、

居場所ハウスと同じような課題を持っている印象を受け、一緒に協力することは出来ないのかなと思った。もしかしたら地域おこし協力隊の人達がつなぎ役になるのかもしれないが、正直に言うと彼らには本気度が足りないのではないかなと思った。一緒に取り組むとなると、もちろん人間関係や組織の問題があり、簡単にはいかないのだろうが、同じような取り組みをして敵になってしまつてはもったいないと感じた。また地域おこし協力隊の存在で今後何が起きるのかも気になっている。居場所ハウスにチラシが貼ってあったタブレット教室は、現在ボランティアの3名のみが受講生とのことで、あまり需要がない企画(協力隊の人がやりたいことを自由にやっている形)のようであったが、それでもまっさきのために来た若い人と一緒に活動することを楽しいと感じてくれる人がいるのだとわかった。

・たくさんの記録があることに驚きました。メンテナンス不足による無線のバッテリー切れはあってならないこと。防災に携わり自治体に足を運ぶことも多々あるので、機器のメンテナンス、運用訓練の重要性を時折何気ない会話の中で発信したいと思いました。このようなプログラムは、観光プログラム化するなど、震災経験者として語り伝え続けてほしいと思いました。ごいし浜停車場プロジェクトの話も興味深かったです。急がず、ゆっくり進められるとのことですが、次に訪れるときが楽しみになりました。

・震災当日の生々しいお話を聞くことができた。場所や地形による津波襲来の違いを知ることができた。

その他振り返り

・今回、よろず相談のみならず、居場所ハウスでの懇親会の機会を設けて頂いて、現地の方々とゆっくりと深い話ができたとが本当に嬉しかった。普段教員以外の大人と話す機会がなく、大人と話すことに苦手意識があるが、通じ合って気持ちで話せたことが嬉しかった。また、行き・帰りの新幹線でも参加者とお話する機会をいただき、「働く」ということについて、様々な側面から考えることができたのもすごく有り難かった。学生だからと、資金の面で沢山援助をしてくださり、自分がこうやって普通ではあり得ない体験ができていることに本当に感謝の気持ちでいっぱい、自分が将来還元できる存在になるために、これからももっともっと学び続けたいと思う。

・夜の反省会は22時終了と最初から決めているのであれば、終了時間3分前から一人ひとりに意見を言わせるのはやめたほうが良いです。公式な場と、おしゃべりして楽しむ場は、きちんと分けたほうがよいかもしれません。1日目の朝も早かつ

たのに、夜ダラダラと長く続くのは、集中力も体力も果てて、翌日の活動にも影響が出る可能性があり、危険です。

・今回のような支援活動（活動を引き継いだ先の自主性を重んじた支援活動）は、主体的に動く支援よりも難しいと痛感しました。

・SNS発信担当者が、書いていることはそれぞれの立場や発信目的から考察すると、虚偽の報告を書いている訳ではないことがわかった。関係者間の考え方の違い、情報伝達のミスコミュニケーションなどに起因するものようでした。

・次回があるとすれば、まさきの方にご負担をおかけしないように、パソコン教室の運営実態に即して、2～3名の小さなチームで何う運用も良いのではないかと感じました。

以上
(参加者による報告書から抜粋)